

ハイリスク患者の がん薬物療法ハンドブック

多様化・複雑化する患者への治療戦略を身につける

◆ 監修の序	南 博信	
◆ 編集の序	安藤雄一, 寺田智祐	
◆ 略語一覧		10
◆ 抗がん薬・レジメン一覧表		13

第1章 配慮を要する患者でのがん薬物療法

1. 高齢	野村久祥	16
2. うつ	三宅知宏	23
3. 肥満	若林雅人	32
4. 妊娠・授乳	日置三紀	39
5. 妊孕性の温存	日置三紀	48
6. 社会的な配慮	渡邊裕之	55

第2章 副作用リスクを高める病態でのがん薬物療法

A. 循環器疾患	野田哲史	
1. 高血圧		62
2. 不整脈		69
3. 虚血性心疾患		78
4. 血栓症		83
5. 心不全		92

B. 消化器疾患	橋本浩伸
1. 胃十二指腸潰瘍	102
2. 下痢・便秘・炎症性腸疾患 (IBD)	106
C. 肝疾患	黒田純子
1. 肝機能障害	113
2. ウィルス肝炎 (主に B 型)	132
D. 腎疾患	玉木慎也
1. 腎機能障害	136
2. 電解質異常	145
3. ネフローゼ症候群	152
E. 呼吸器疾患	中垣 繁
1. 間質性肺炎	158
2. COPD・気管支喘息	165
F. 神経系疾患	林 稔展
1. 脳血管障害	174
2. 末梢神経障害	181
3. 筋疾患	189
4. 痙攣	195
G. 内分泌・代謝疾患	土手賢史
1. 糖尿病	201
2. 骨粗鬆症	210
3. 甲状腺機能低下症	218
4. 高尿酸血症	226

H. 膠原病・リウマチ性疾患	鈴木賢一	
1. 膠原病・リウマチ性疾患		228
I. 血液疾患	宇佐美英績	
1. 貧血		233
2. 特発性血小板減少 (ITP など)		240
3. 骨髄異形成症候群 (MDS)		248
J. 感染症	須藤正朝	
1. かぜ症候群		253
2. 結核・非結核性抗酸菌症		259
K. 眼科疾患	大辻貴司	
1. 緑内障・白内障・硝子体疾患		267

第3章 見過ごせない臨床背景とがん薬物療法

1. 周術期	東 加奈子	274
2. 薬物相互作用	牧野好倫	279
3. ポリファーマシー	丹田雅明	288

第4章 特殊な臨床背景でのがん薬物療法

1. PS 不良例	池末裕明	296
2. 重複がん・多発がん	吉村知哲	302
3. 多量腹水・多量胸水	藤田行代志	308
4. 摂食・嚥下困難	佐藤淳也	314
5. 凝固異常症	根本真記	324

6. 歯科治療中	榎原克也	333
7. 長期にわたるステロイド内服患者	若杉吉宣	339
◆ 付録1：自習のための確認問題		348
◆ 付録2：抗がん薬の薬物相互作用		362
◆ 索引		374
◆ 執筆者一覧		380

適応外 について

薬剤の適応外使用については **適応外** アイコンをつけています。